



報道機関各位

平成 28 年 11 月 14 日

国立大学法人京都工芸繊維大学
学長 古山正雄
京都市立京都工学院高等学校
校長 砂田浩彰

京都工芸繊維大学×京都工学院高校：英語教育連携

京都工学院高校フロンティア理数科の学期末テストで
スカイプ方式の英語スピーキングテストを実施します

京都工芸繊維大学は、独自の CBT (Computer-Based Test) を開発し、学内で定期実施することにより、大学院や学部入試への英語スピーキングテスト導入の早期実現を目指しています。

このたび、その実績を活かして、京都工学院高校において、生徒とフィリピン・セブ島の面接官を Skype (スカイプ) で結ぶビデオフォン方式の英語スピーキングテストを開発しました。

このテストは、一年生が履修する科目「英語表現 I」の学期末テストとしてデザインしたもので、7月4日(月)の一学期末テストにおけるパイロット実施を経て、来る11月28日(月)の二学期末テストより本格導入いたします。

つきましては、記事掲載および当日の取材につきまして、格段のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

記

- 1 日 時 平成 28 年 11 月 28 日 (月) 14 : 20 ~ 16 : 10
- 2 場 所 京都市立京都工学院高等学校 西館 1 階 PC 室 2
(京都市伏見区深草西出山町 2 3)
- 3 内 容 「英語表現 I」の二学期末テストにおける
ビデオフォン (スカイプ) 方式スピーキングテスト実施

※詳細は次ページをご覧ください。

<このリリースに関するお問い合わせ先>

※当日の取材について
京都市立京都工学院高等学校 教頭 谷口正朋
TEL : 075-646-1515 (代表) FAX : 075-646-1516

※テストの内容について
京都工芸繊維大学 基盤科学系 教授 羽藤由美
TEL : 075-724-7263 (直通) FAX : 075-724-7263

- 1 日 時 平成28年11月28日(月) 14:20~16:10
- 2 場 所 京都市立京都工学院高等学校 西館1階 PC室2
(京都市伏見区深草西出山町23)
- 3 内 容 1年生が履修する科目「英語表現I」の二学期末テストにおける
スカイプを利用した英語スピーキングテストの実施
- 4 対 象 フロンティア理数科1年生(31名×2クラス)
- 5 実 施

6限	14:20~15:10(50分)	1組31名を4グループに分けて実施
	<休憩>	
7限	15:20~16:10(50分)	2組31名を4グループに分けて実施

※7限の最初にPC室において撮影していただけます。その後、受験した生徒、および、
テスト開発担当教員(京都工繊大)、英語授業担当教員(京都工学院高)の取材もしていただけます。

6 今後のスケジュール

第3回(三学期末テスト) 平成29年2月6日(月) 14:20~16:10
(後日変更の可能性あり)

7 本取組のポイント

- 生徒たちがPCモニターを挟んで、海外の面接官と会話する対面式のスピーキングテストです。学校・大学等における新たなスピーキングテストのあり方を提案します。
- 専門分野の知識・技能を基盤として自らの考えを堂々と世界に発信することのできる若者を育てるために、京都工学院高校と京都工芸繊維大学の英語教員が連携しました。高校の授業—定期考査—大学入試—大学の授業—大学院入試を有機的につなぐことにより、4技能(聴く・話す・読む・書く)をバランスよく伸ばし、真の意味で英語を使える若者を育てるための試みです。
- 中学校、高等学校の準備が整うのを待たずに、大学入試にスピーキングテストを導入することには大きな弊害が伴います。日頃の教育で培われた能力を定期的に測り、大学入試はその延長線上に来るのが理想です。中→高→大、定期テスト→入試と段階的にスピーキングテストを導入する可能性を探るための試みでもあります。
- フィリピンに拠点を置いてスカイプ英語レッスンを提供する企業(QQ English)が共同研究に参加しました。

なお、本事業は、平成28年度科学研究費基盤研究(B)「入学試験や定期考査に利用できる英語スピーキングテストシステム構築のための指針策定」(課題番号16H03448)の助成を受けています。

*プロジェクトのウェブサイト(以下)では、一学期末テストにおいてパイロット実施をした際の写真等をご覧ください。

<https://kitspeakee.wordpress.com/2016/07/04/京都工学院高校フロンティア理数科の学期末考査/>